

## 地域美産研究会ニュース No.112

発行：平成 28 年（2016 年）9 月 10 日

第 112 回催事 地域美産研究会

『岡本太郎と日本民家園』

実施期日：平成 28 年 10 月 22 日（土）

岡本太郎は 1911 年（明治 44）2 月 26 日、漫画家岡本一平と歌人岡本かの子の長男として、<sup>たちばな</sup>橘樹郡高津村（現在の川崎市高津区二子）にある母の実家、大貫家に生まれた。青山の小学校に入学するが馴染めず、慶応幼稚舎に入学、普通部卒業後東京美術学校洋画科に入学。1929 年（昭和 4）父一平（朝日新聞社社員）のロンドン軍縮会議取材旅行に一家で箱根丸に乗って渡欧。両親は 1932 年に帰国するが、太郎はそのまま居残り、1940 年（昭和 15）帰国する。1996 年（平成 8）死去。太郎の仕事では 1970 年万博での「太陽の塔」がよく知られている。生田緑地奥に川崎市立岡本太郎美術館がある。

川崎市立日本民家園は、1967 年（昭和 42）、急速に消滅しつつある古民家を将来に残すことを目的とした野外博物館である。東日本を中心とした民家、水車小屋、船頭小屋、農村歌舞伎舞台など 25 件の民家が集まっている。

岡本太郎と日本民家園は直接関係はない。しかし太郎の眼は縄文や沖縄を見る目を持っていた。戦後の高度経済成長のさなかで次々と失われつつあった民家を系統的に収集して、なおかつ一般に公開して見せる施設として今では貴重な存在である。



「誇り」岡本太郎



北村家住宅

### 探訪予定コース（予定）

東急田園都市線二子新地駅改札口 → 岡本かの子文学碑「誇り」 → 大貫家跡 → 向ヶ丘遊園駅  
→ 日本民家園見学（ボランティア解説付き） → 枳形山 → 岡本太郎美術館

### 企画 藤嶋俊會（ふじしま としえ）

地域美産研究会代表。美術評論家連盟会員。原三溪市民研究会事務局長。屋外彫刻調査保存研究会会長。

## 第 112 回催事 『岡本太郎と日本民家園』

### 探訪会

日 時	平成 28 年 10 月 22 日 (土) 12:30~16:30 頃迄 (雨天決行)
集 合 時 間 ・ 場 所	12:30 東急田園都市線二子新地駅改札口
探訪コース (予定)	東急田園都市線二子新地駅改札口 → 岡本かの子文学碑「誇り」 → 大貫家跡 → 向ヶ丘遊園駅 → 日本民家園見学 (ボランティア解説付き) → 枳形山 → 岡本太郎美術館 → 交歓会
案 内 と 解 説	藤嶋俊會
参 加 人 数	15 名 (会員優先) (事前予約必要)
探訪会等の参加費	3 ページ参照
遅 刻 等 の 連 絡	090-7827-8228 (藤嶋)

### 交歓会

日 時	平成 28 年 10 月 22 日 (土) 17:00~19:00
会 場 名	未定 (調査中)
参 加 費	
住 所	向ヶ丘遊園
電 話	

**第112回催事 『岡本太郎と日本民家園』**  
参加申込書

記入日：2016年 月 日

① **10月15日(土)迄**にこの申込書をメール、FAX(045-513-9432)、郵送で。

ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏名		職業			
住所					
生年月日	大正/昭和/平成 (西暦) 年 月 日				
会員資格	①会員 ②家族会員 ③法人会員 ④学生会員 ⑤一般(非会員) ⑥地元関係者				
Tel(自宅)		Fax			
Tel(携帯)		e-mail			
②家族会員と③法人会員は、2名まで当該会員料金で参加可能。					
ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏名		職業			
ふりがな		性別	男・女	年齢	才
氏名		職業			

② 参加記入欄(該当金額欄に○を付けて下さい)

	1 探訪会	2 交歓会	3 寄付(任意)	4. 合計
会員	1,000			
家族会員(1名分)	1,000			
法人会員(1名分)	1,000			
家族/法人会員の+1名	1,000			
*学生と地元関係者	1,000			
一般(非会員)	1,500			

**参加申込と受付** 会員優先で申込先着順とします。以下の申込手続きに従って申し込んでください。

- 参加申込欄の記入事項欄に必要事項を記入し、メールかファックス又は郵送で事務局へ。
- 事務局から参加枠確保の連絡を受けて、指定振込口座  
(みずほ銀行 虎ノ門支店 店番号046 普通口座 口座番号 4053204 地域美産研究会 会計 渡辺久剛)に貴方の参加料金を振込料自己負担で振り込み。
- 振込み無き場合は貴方の参加枠を喪失します。
- 振込み済み料金払戻し；主催者側瑕疵の場合を除き払戻不可。
- 申込締切日：12月15日(月)
- 郵便宛先：〒245-0002 横浜市泉区緑園2-1-2-405 電話・FAX:045-513-9432  
メールアドレス：[toshie@cc.catv-yokohama.ne.jp](mailto:toshie@cc.catv-yokohama.ne.jp)

③ 貴方の振込金額(上欄○印金額の合計を記入)： ¥ \_\_\_\_\_ 円

## Public Art Forum 地域美産研究会とは

日頃人々が生活する場に創り遺された地域の社会美産\*たちを、専門家と一緒に現地に訪ね、歴史と文化、地域性や国際性、美や技、景色などの視点から眺めて味わい、地域の魅力を再発見・再評価する。

(※社会美産と地域美産：パブリックアートの視点を拓く為の新造語)

地域の魅力再発見・再評価を通して、改めてその土地ならではの歴史や暮らしに愛情・尊敬・誇りを感じ、心の充実安心を得て、自分づくり、家族との絆づくり、仕事づくり、会社づくり、街づくり、国づくりに役立つ何かを見付けながら、仲間達との交歓を楽しむ会員制非営利任意団体です。

会員入会者・催事参加者は、学生・社会人・各分野の専門家など時には外国人を含む幅広い人々が分け隔てなく参加して、各人ならではの参加意図に適った充足感を味わっています。

地域美産研究会は、街づくり景観づくりに関係する地方自治体や都市デザイン・アート分野の人々が集い活動した「パブリックアート・フォーラム」(平成6年～13年、代表幹事 田村 明)を継承した会で、非会員の方々も活動に参加できます。



## Public Art Forum 地域美産研究会 設立のきっかけ

パブリックアート・フォーラムは、平成14年(2002)12月迄の過去10年間、美術館から街中に出て、各地の街角や広場に設置された彫刻に代表されるパブリックアートたちに焦点を合わせて、もっぱら欧米におけるそれらの役割・効果を調べて、普及・研究活動を行ってきました。

その後、米国のパブリックアート著名作家 マヤ・リンが、伊勢神宮を日本の優れたパブリックアートとして挙げたこと、環境美学研究家バーバラ・サンドリッセがその著書「パブリックアートとしての鳥居、その不思議な魅力(2000年刊)」で、日本の鳥居をパブリックアートとして大変高く評価したこと、平成13(2001)年、女史の来日を記念して開催した特別フォーラム「バーバラ・サンドリッセと都心の鳥居を探訪し、女史の話を聞く会」での体験が、パブリックアートに対する私達の視点を大きく広げて、新しい活動を促しました。

私たちのごく身近に古くから在って、地域の生活と密接に係わりながらその地の生活文化を創り育て、人々の心の拠り所になってきた、その地ならではの美しき良きモノたちを、従来型のパブリックアートを含めて現地に訪ね、肌で味わい評価する。それらの再発見・再評価を通じて、地域の暮らしと歴史に愛情・尊敬・誇りを感じ、心の充実・安寧を得ながら次代を生き抜く力とする。「Public Art Forum 地域美産研究会」(昨年度迄は「地域美産研究・探訪会」)は、このような主旨から平成14年12月1日に設立された活動団体です。



運営：アドバイザー・会員等の意見・提言を受けて「世話人会」が運営を担う。

### (1) 世話人会

創立者／相談役：	杉村 荘吉	(パブリックアート研究所代表)
代 表：	藤嶋 俊會	(美術評論家)
副 代 表：	伊豆井 秀一	(埼玉県立近代美術館主任専門員兼学芸員)
世 話 人：	石村 誠人	(駅・街デザインとパブリックアート研究家)
	渡辺 久剛	(会計：三井不動産ビルマネジメント(株))
	橋本 完	(アート・インキュベータ：アトリエまほろ主宰)
	渡部 伍郎	
	宝利 修	(ITアドバイザー：ぶんか合同会社プランナー)

### (2) アドバイザー

後藤 元一	(環境設計家、元札幌市立高専教授)
建畠 哲	(美術評論家、埼玉県立近代美術館館長)
山岡 義典	(市民社会創造ファンド 運営委員長)